

# 第1部 子ども・子育て環境の現状

## 1 全国における少子化の現状

内閣府の「第4次少子化社会対策大綱」（令和2年5月閣議決定）によると、少子化の主な要因は、未婚化、晩婚化、有配偶出生率の低下であり、特に、若い世代での未婚率の増加や、初婚年齢の上昇の影響が大きいとされています。

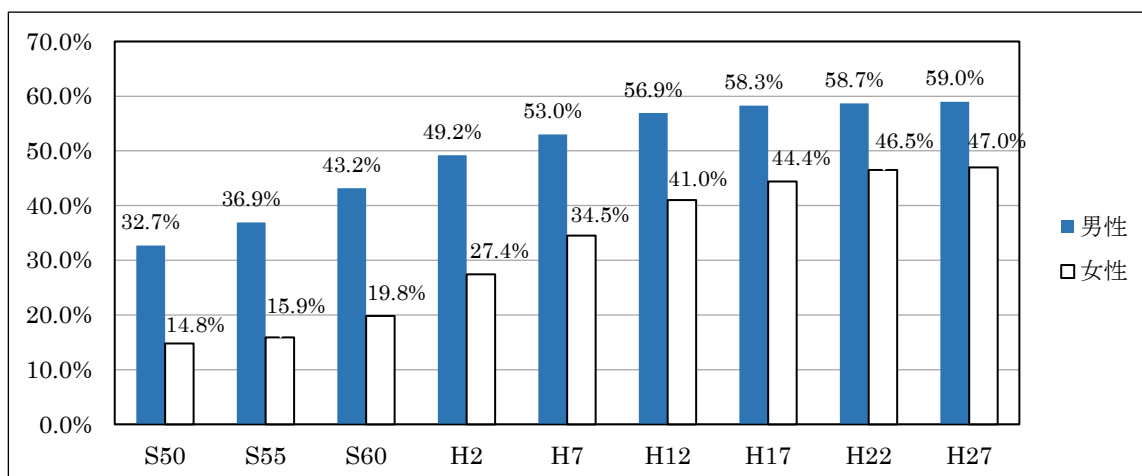
ここでは、国の統計資料を基に、それぞれの要因の現状について整理します。

### (1) 未婚化について

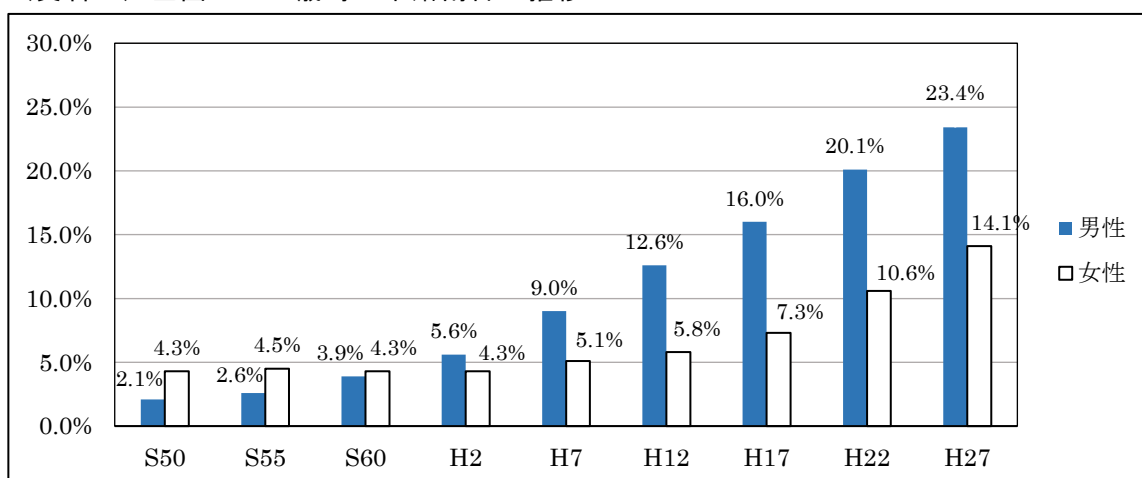
25～34歳の若年層における未婚率は、昭和50年と平成27年を比べると、男性は32.7%から59.0%、女性は14.8%から47.0%に上昇しています。

また、平成27年における50歳時点の未婚割合（生涯未婚率）をみると、男性のおよそ5人に1人、女性のおよそ7人に1人が未婚となっています。

(資料1) 全国 25～34歳の未婚割合の推移



(資料2) 全国 50歳時の未婚割合の推移



※ 資料：国勢調査（総務省）

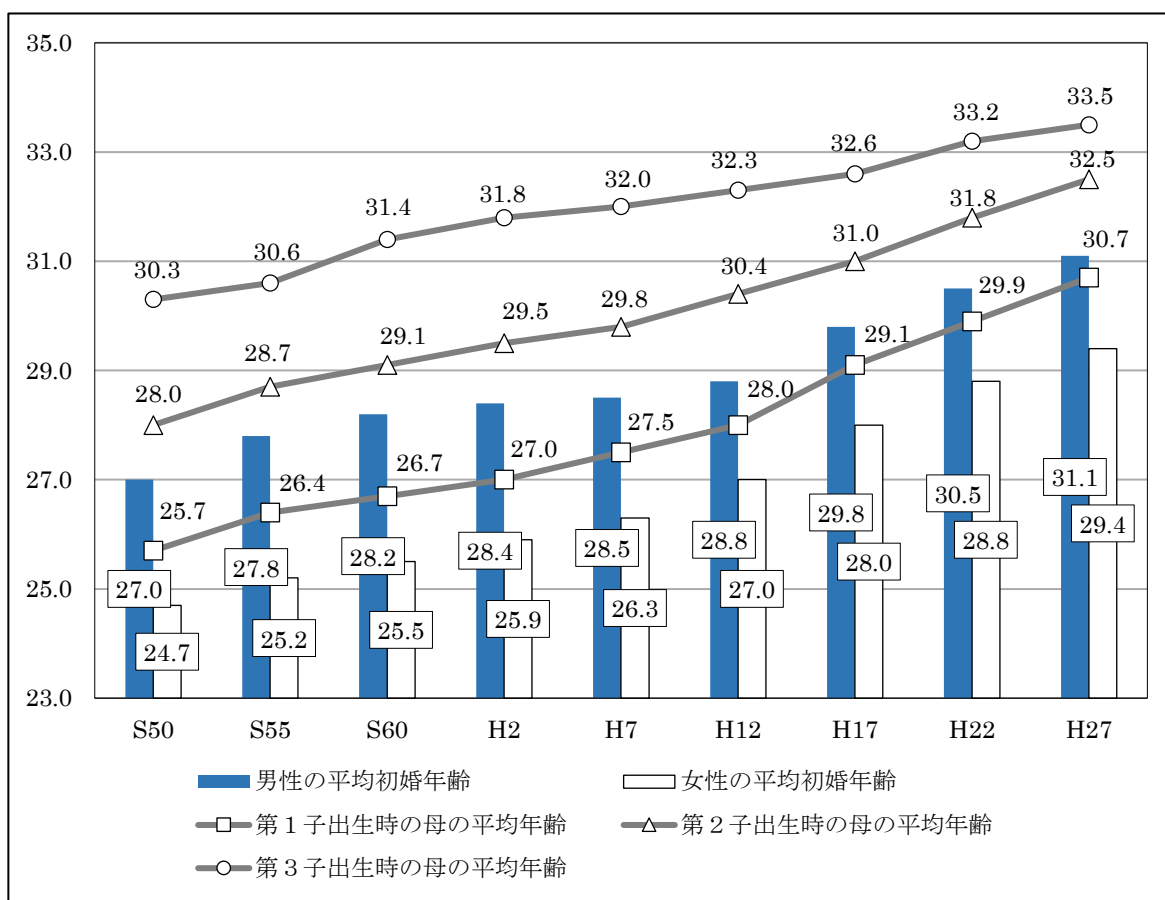
## (2) 晩婚化について

平均初婚年齢は、昭和50年に男性が27.0歳、女性は24.7歳となっており、平成27年と比較すると、男性は4.1歳、女性は4.7歳上昇しています。

また、出生時の母親の平均年齢を出生順位別にみると、いずれも出生時年齢が上昇しています。さらに、第1子と第2子、第2子と第3子における母親の出生時年齢の差を比較すると、昭和50年に2.3歳でありましたが、平成27年にはそれぞれ1.8歳、1.0歳と出生の間隔が短くなっています。

(資料3) 全国 平均初婚年齢と出生順位別母の平均年齢の推移

(単位：歳)



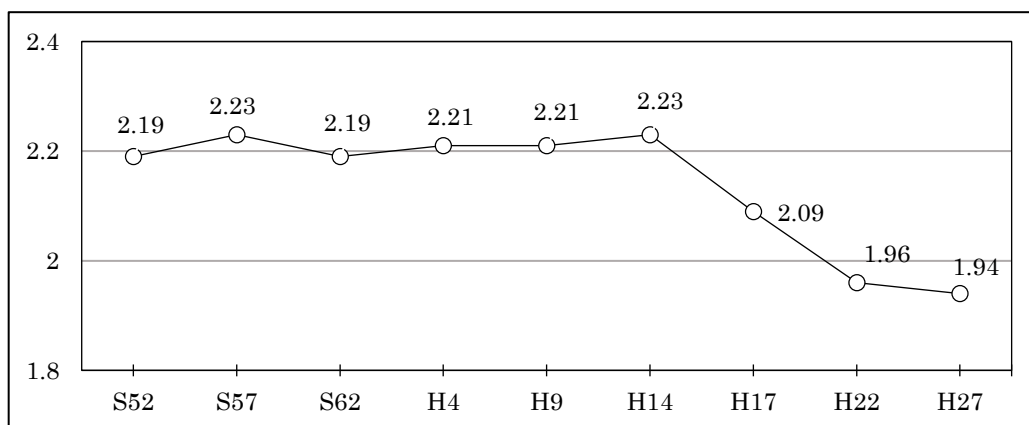
※ 資料：人口動態統計（厚生労働省）

### (3) 有配偶出生率（結婚している女性の出生率）の低下について

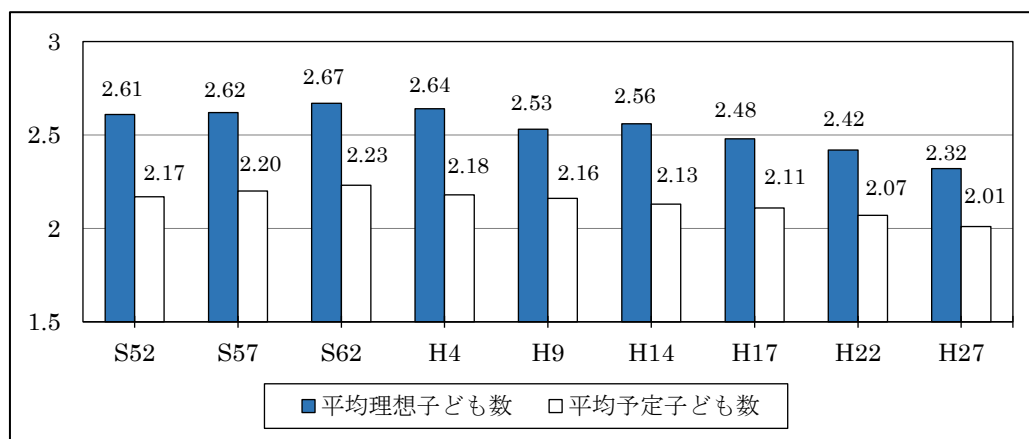
国立社会保障・人口問題研究所の「出生動向基本調査（夫婦調査）」によると、夫婦の完結出生児数（結婚持続期間15～19年の夫婦の平均出生子ども数）は、平成17年度から減少傾向となり、平成27年度は1.94人と過去最低となっています。

また、夫婦にたずねた実際に持つ予定の子ども数（平均予定子ども数）をみると、いずれの年度も、理想とする子ども数（平均理想子ども数）を下回っています。

(資料4) 全国 夫婦の完結出生児数の推移 (単位：人)



(資料5) 全国 平均理想子ども数と平均予定子ども数の推移 (単位：人)



※ 資料：出生動向基本調査（夫婦調査）（国立社会保障・人口問題研究所）

### (4) 関連する要因について

少子化の問題は、出会いの機会の減少や経済的な不安定さ、男女の仕事と子育ての両立の難しさ、子育て中の孤立感や負担感、子育てや教育にかかる費用負担の重さ、年齢や健康上の理由など、個々人の結婚や出産、子育ての希望の実現を阻む様々な要因が複雑に絡み合っています。

## 2 旭川市の子ども・子育てを取り巻く現状

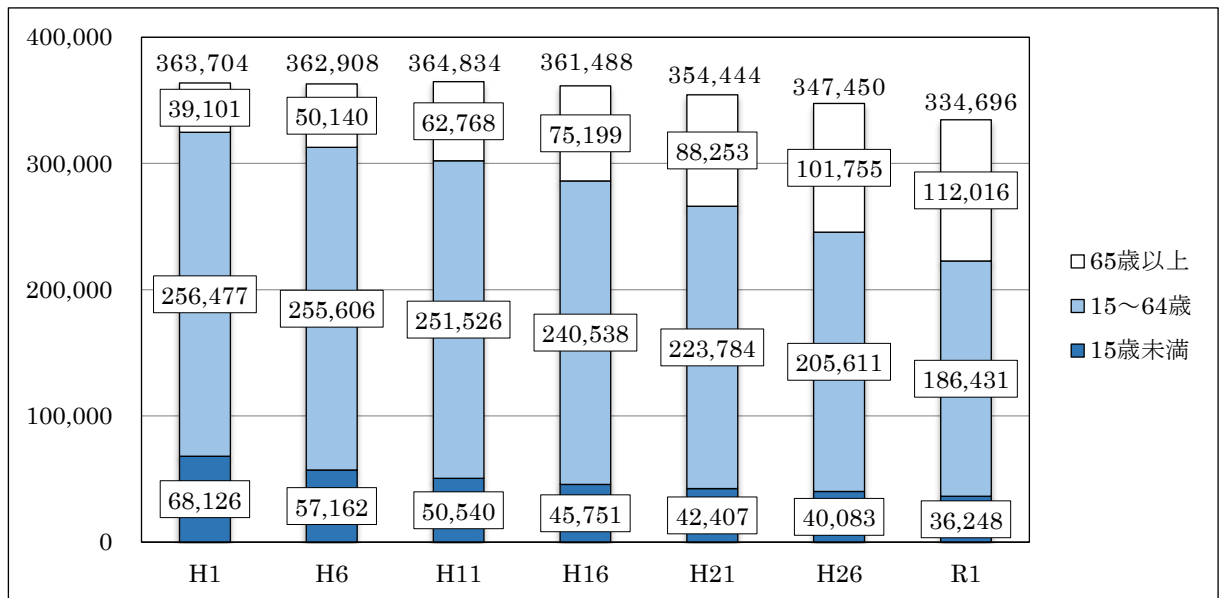
### (1) 人口の状況

年齢3区分別の人口の推移をみると、15歳未満の人口は、平成元年の68,126人から、令和元年の36,248人と30年間で約32,000人減少しています。

年齢3区分別の人口割合の推移をみると、15歳未満と15～64歳の割合が減少する一方、65歳以上の老年人口の割合は大きく増加しており、全国と比べて少子高齢化が進行しています。

(資料6) 旭川市 年齢3区分別の人口の推移

(単位：人)



人口割合	H1	H6	H11	H16	H21	H26	R1
□65歳以上	10.8%	13.8%	17.2%	20.8%	24.9%	26.3%	33.5%
■15～64歳	70.5%	70.4%	68.9%	66.5%	63.1%	61.1%	55.7%
■15歳未満	18.7%	15.8%	13.9%	12.7%	12.0%	12.7%	10.8%

※ 資料：住民基本台帳。各年10月1日現在（H21以前は9月30日現在）。

### 【参考】全国 年齢3区分別の人口割合の推移

人口割合	H1	H6	H11	H16	H21	H26	R1
65歳以上	11.6%	14.1%	16.7%	19.5%	22.8%	26.0%	28.4%
15～64歳	69.6%	69.6%	68.5%	66.6%	63.9%	61.3%	59.5%
15歳未満	18.8%	16.3%	14.8%	13.9%	13.3%	12.8%	12.1%

※ 資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（総務省）  
各年10月1日現在

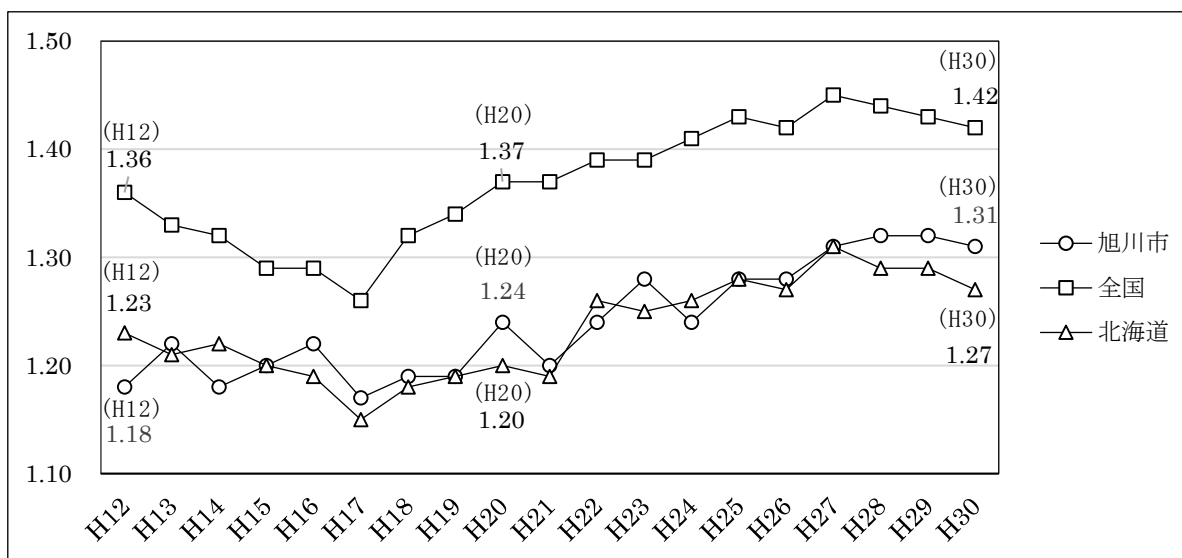
## (2) 出生の状況

### ア 合計特殊出生率について

本市の合計特殊出生率は、近年、上昇傾向がみられ、北海道の数値をやや上回って推移しておりますが、全国の数値は下回っています。

また、都道府県間で地域差が生じており、北海道は下位に位置しています。

(資料7) 全国・北海道・旭川市 合計特殊出生率の推移 (平成12年～30年)



	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30
旭川市	1.18	1.18	1.22	1.19	1.24	1.24	1.24	1.28	1.32	1.31
全国	1.36	1.32	1.29	1.32	1.37	1.39	1.41	1.42	1.44	1.42
北海道	1.23	1.22	1.19	1.18	1.20	1.26	1.26	1.27	1.29	1.27

※ 資料：旭川市保健衛生年報

### 【参考】

#### ・合計特殊出生率 (H30) の高い都道府県

順位	1位	2位	3位	4位	5位
都道府県名	沖縄県	島根県	宮崎県	鹿児島県	熊本県
合計特殊出生率	1.89	1.74	1.72	1.70	1.69

#### ・合計特殊出生率 (H30) の低い都道府県

順位	43位	44位	45位	46位	47位
都道府県名	秋田県	宮城県	京都府	北海道	東京都
合計特殊出生率	1.33	1.30	1.29	1.27	1.20

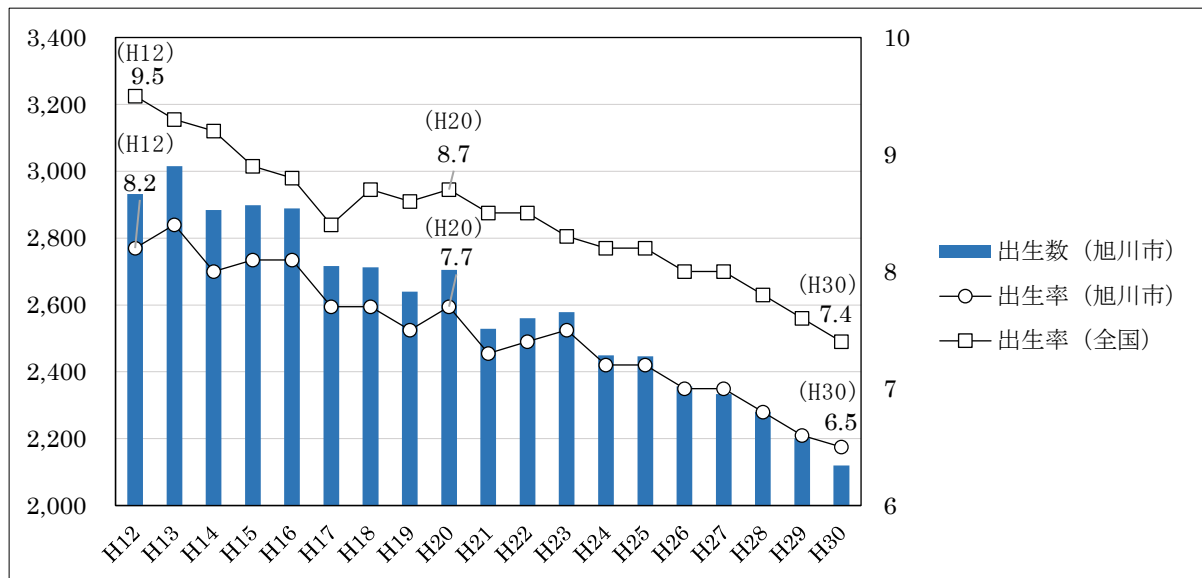
※ 資料：人口動態統計 (厚生労働省)

## イ 出生数と出生率について

人口千人当たりの出生率は、出生数の減少に伴って低下しています。

母親の年齢別にみると、出産数の構成比が最も高い年齢層は、20代後半から30代前半へと移行しており、出産年齢の高齢化がみられます。

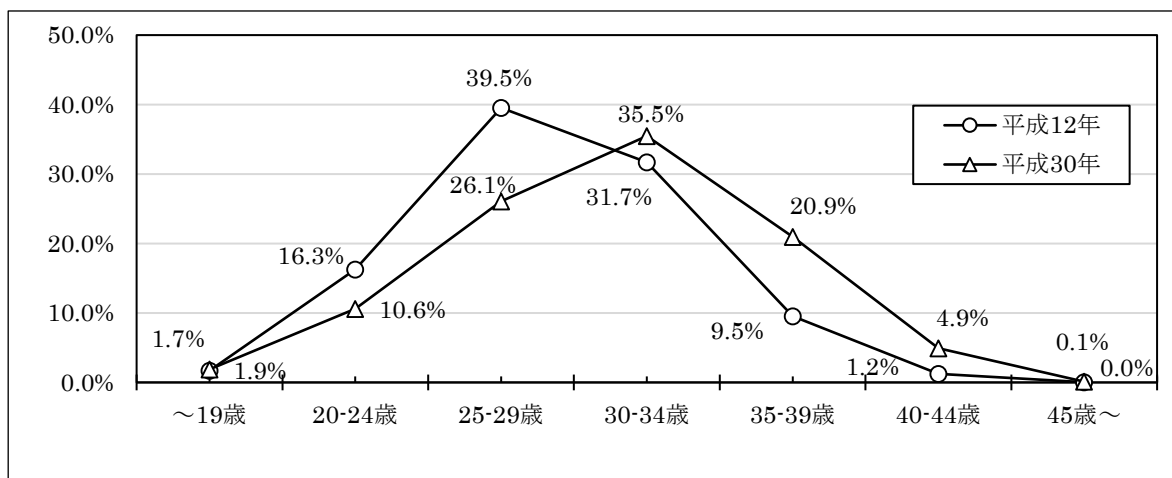
(資料8) 全国・旭川市 出生数及び出生率の推移(平成12年～30年) (単位:人, ‰)



	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30
出生数(旭川市)	2,932	2,884	2,889	2,713	2,705	2,560	2,449	2,356	2,280	2,120
出生率(旭川市)	8.2	8.0	8.1	7.7	7.7	7.4	7.2	7.0	6.8	6.5
出生率(全国)	9.5	9.2	8.8	8.7	8.7	8.5	8.2	8.0	7.8	7.4

※ 資料：旭川市保健衛生年報

(資料9) 旭川市 母親の年齢階級別出生数(構成比)の推移

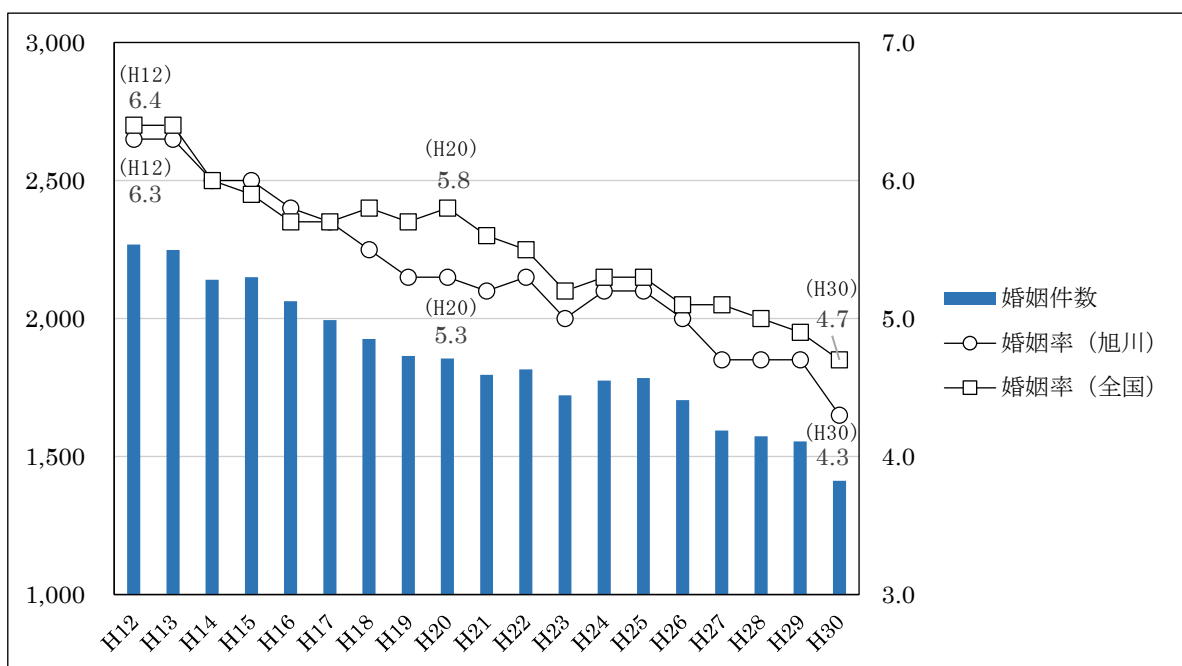


※ 資料：旭川市保健衛生年報

### (3) 婚姻の状況

人口千人当たり婚姻率について、平成17年以降は、全国を下回った数値で推移しています。また、平均初婚年齢は、全国に比べて早い傾向にあります。

(資料10) 全国・旭川市 婚姻件数及び婚姻率の推移(平成12年～30年) (単位:人,%)



	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30
婚姻件数(旭川市)	2,268	2,141	2,063	1,926	1,855	1,816	1,775	1,704	1,573	1,412
婚姻率(旭川市)	6.3	6.0	5.8	5.5	5.3	5.3	5.2	5.0	4.7	4.3
婚姻率(全国)	6.4	6.0	5.7	5.8	5.8	5.5	5.3	5.1	5.0	4.7

※ 資料：旭川市保健衛生年報

(資料11) 全国・旭川市 平均初婚年齢の推移

・夫の平均初婚年齢 (単位:歳)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
旭川市	29.7	29.7	29.8	29.7	30.0	30.1	29.7
全国	30.8	30.9	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1

・妻の平均初婚年齢 (単位:歳)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
旭川市	28.5	28.6	28.6	28.3	28.7	28.8	28.7
全国	29.2	29.3	29.4	29.4	29.4	29.4	29.4

※ 資料：旭川市保健衛生年報



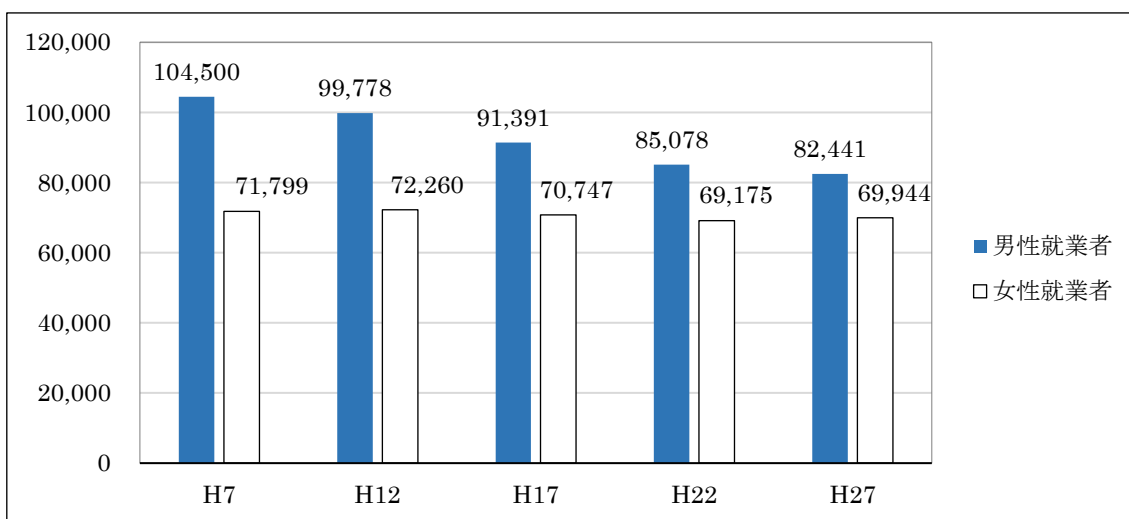
#### (4) 就業の状況

15歳以上の就業者数について、男性就業者は減少を続けていますが、女性就業者は近年増加に転じており、就業者全体に占める割合も高まっています。

母親の就労状況では、就学前児童をもつ母親と比較して、就学児（小学生）をもつ母親はパート・アルバイト勤務の割合が大きく、フルタイム勤務と合わせると7割以上が就労しています。

(資料12) 旭川市 男女別15歳以上就業者数の推移

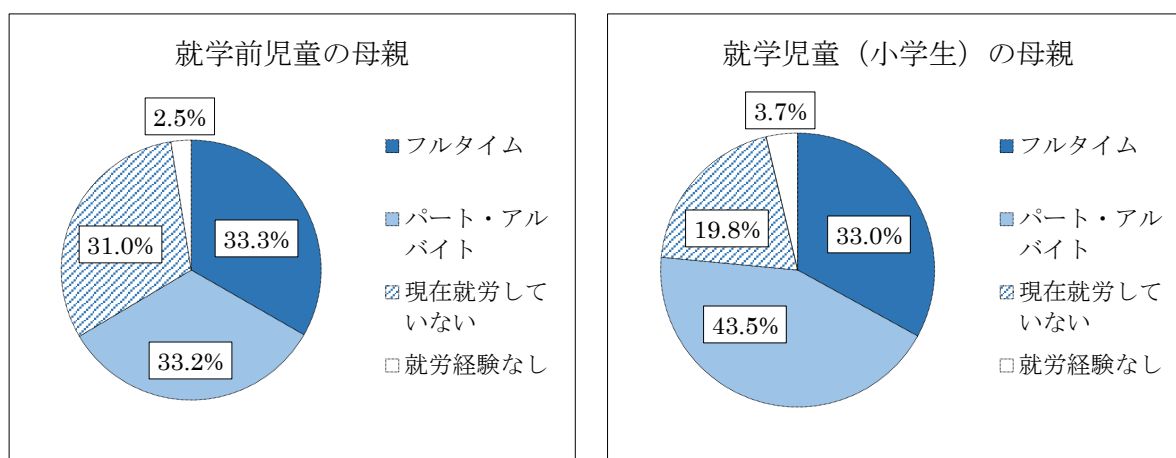
(単位：人)



就業者全体に占める割合	H7	H12	H17	H22	H27
■ 男性就業者	59.3%	58.0%	56.4%	55.2%	54.1%
□ 女性就業者	40.7%	42.0%	43.6%	44.8%	45.9%

※ 資料：国勢調査（総務省）

(資料13) 旭川市 就学前児童及び就学児童（小学生）を持つ母親の就労状況



※ 資料：ニーズ調査結果報告書（H30）。

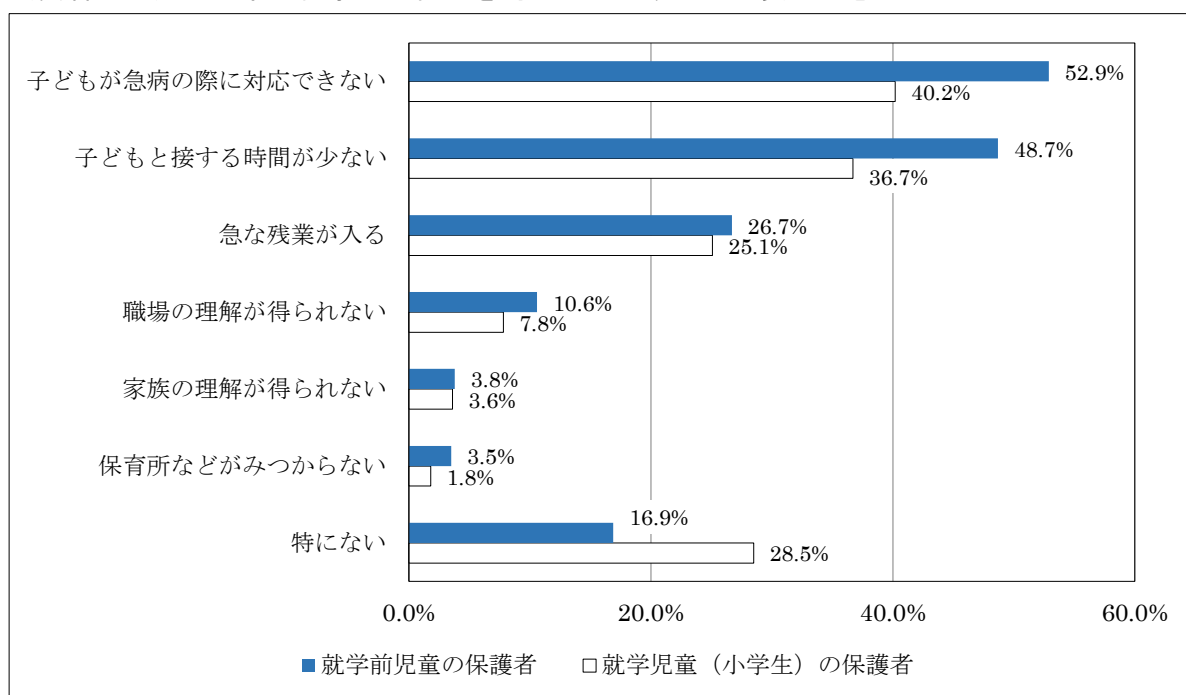
フルタイム及びパート・アルバイトには、産休・育休・介護休業中の者を含む。

### (5) 労働環境の状況

仕事と子育てを両立させるうえで大変だと感じることで、保護者の半数近くが「子どもが急病の際に対応できない」と回答しています。

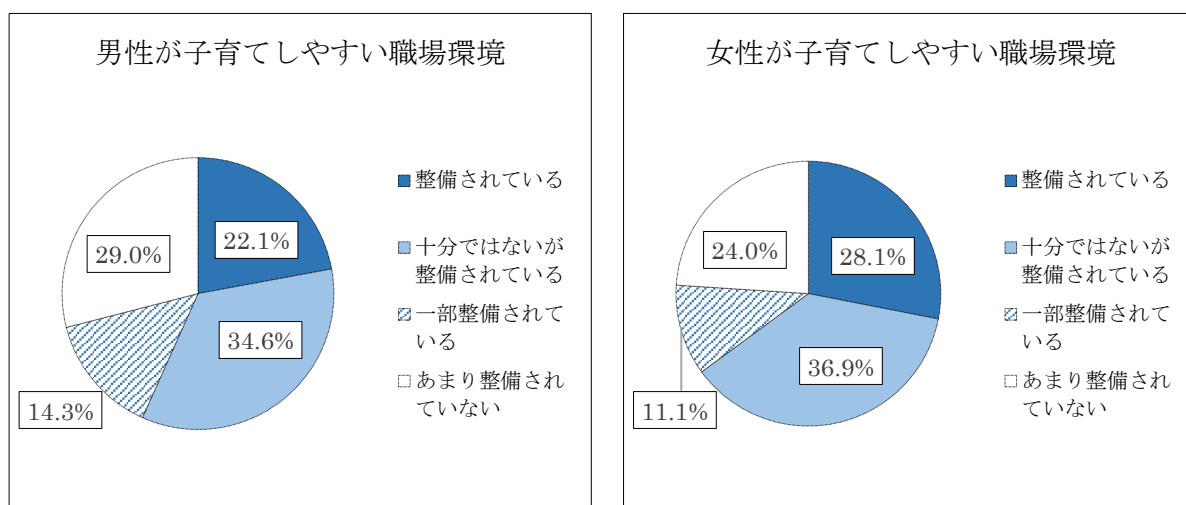
また、従業員が子育てしやすい職場環境の整備状況として、「整備されている」と回答した割合は、男性従業員で2割程度、女性従業員で3割程度に留まっています。

(資料14) 旭川市 仕事と子育てを両立させるうえで大変だと感じること



※ 資料：ニーズ調査結果報告書 (H30)

(資料15) 旭川市 従業員が子育てしやすい職場環境



※ 資料：旭川市労働基本調査 (H29)

### 3 子育て環境について

子育て中の保護者の不安感や子育て環境に対する満足度について、ニーズ調査の結果を基に整理します。

#### (1) 子育て中の保護者の不安感

##### ア 就学前児童を持つ保護者の状況

###### 【子どもに関する悩み】

- ・ 「子どもの教育に関すること」を選択した割合が最も高く、就学前児童を持つ保護者に対して、就学後を見据えた教育に関する助言や情報提供が必要です。
- ・ 「発達・発育に関すること」と「食事や栄養に関すること」を選択した割合は、小学校児童を持つ保護者と比べて高く、乳幼児健康診査や関連する相談業務等により、保護者の不安を和らげたり、子どもにとって望ましい支援につなげていく取組の充実が必要です。

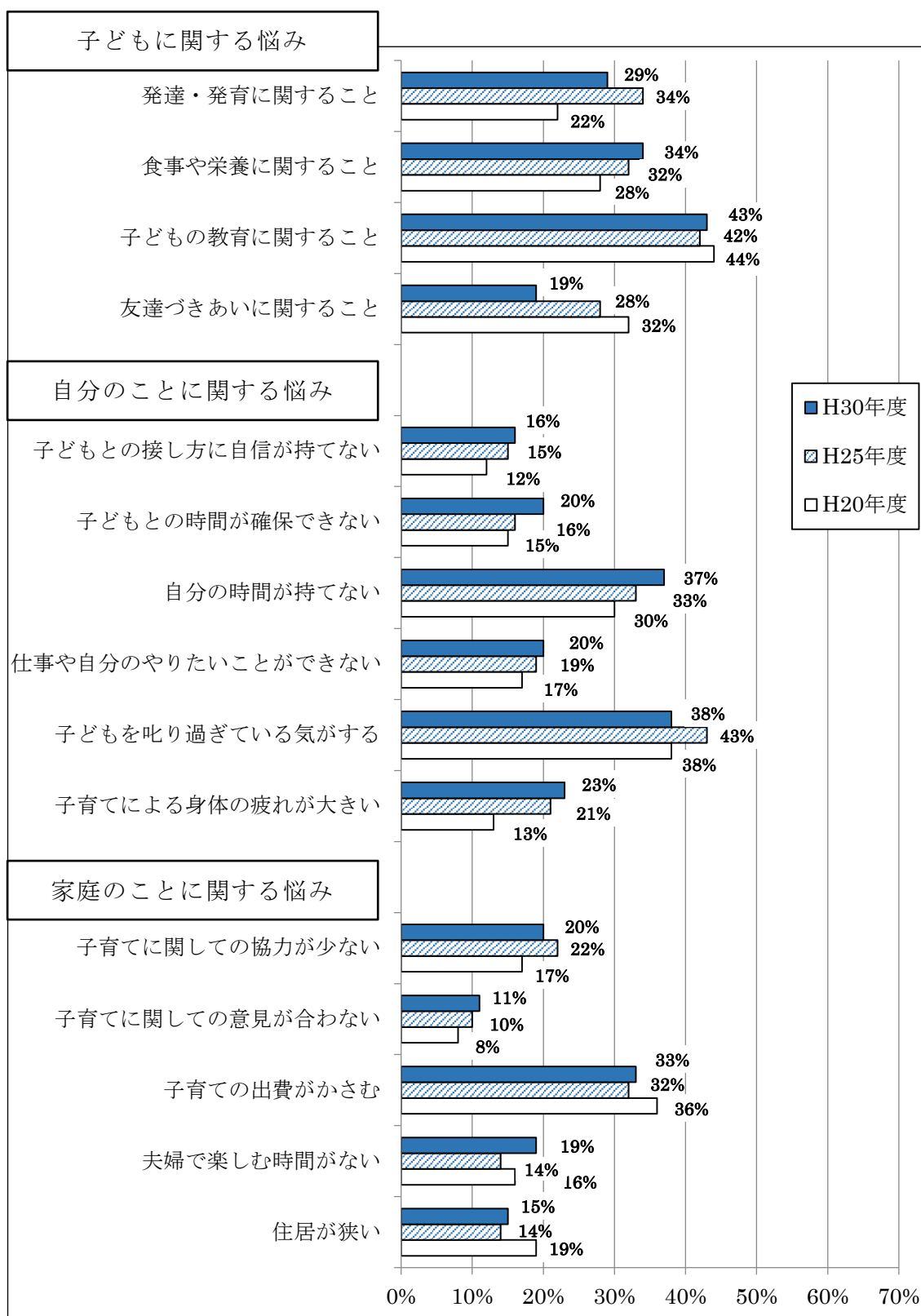
###### 【自分のことに関する悩み】

- ・ 「子どもを叱り過ぎている気がする」を選択した割合は、前回調査時と比べて減少していますが、項目の中で最も高い割合となっており、身近な場所で、気掛かりと感じた段階で不安を軽減する取組が必要です。
- ・ 「自分の時間が持てない」や「子育てによる身体の疲れが大きい」などを選択した割合が前回調査時と比べて増加しています。

###### 【家庭のことに関する悩み】

- ・ これまでの調査時と同様、「子育ての出費がかさむ」を選択した割合が最も高く、30%台を推移しています。

(資料 16) 旭川市 就学前児童を持つ保護者が感じている悩み



※ 資料：ニーズ調査結果報告書 (H30)

## イ 就学児童（小学生）を持つ保護者の状況

### 【子どもに関する悩み】

- ・ これまでの調査時と同様、「子どもの教育に関すること」と「友達つきあいに関すること」を選択した割合が高い状況にあります。これらの項目は、就学前児童を持つ保護者においても選択した割合が高く、関係部局が連携して、情報提供や相談体制の充実に取り組んでいく必要があります。

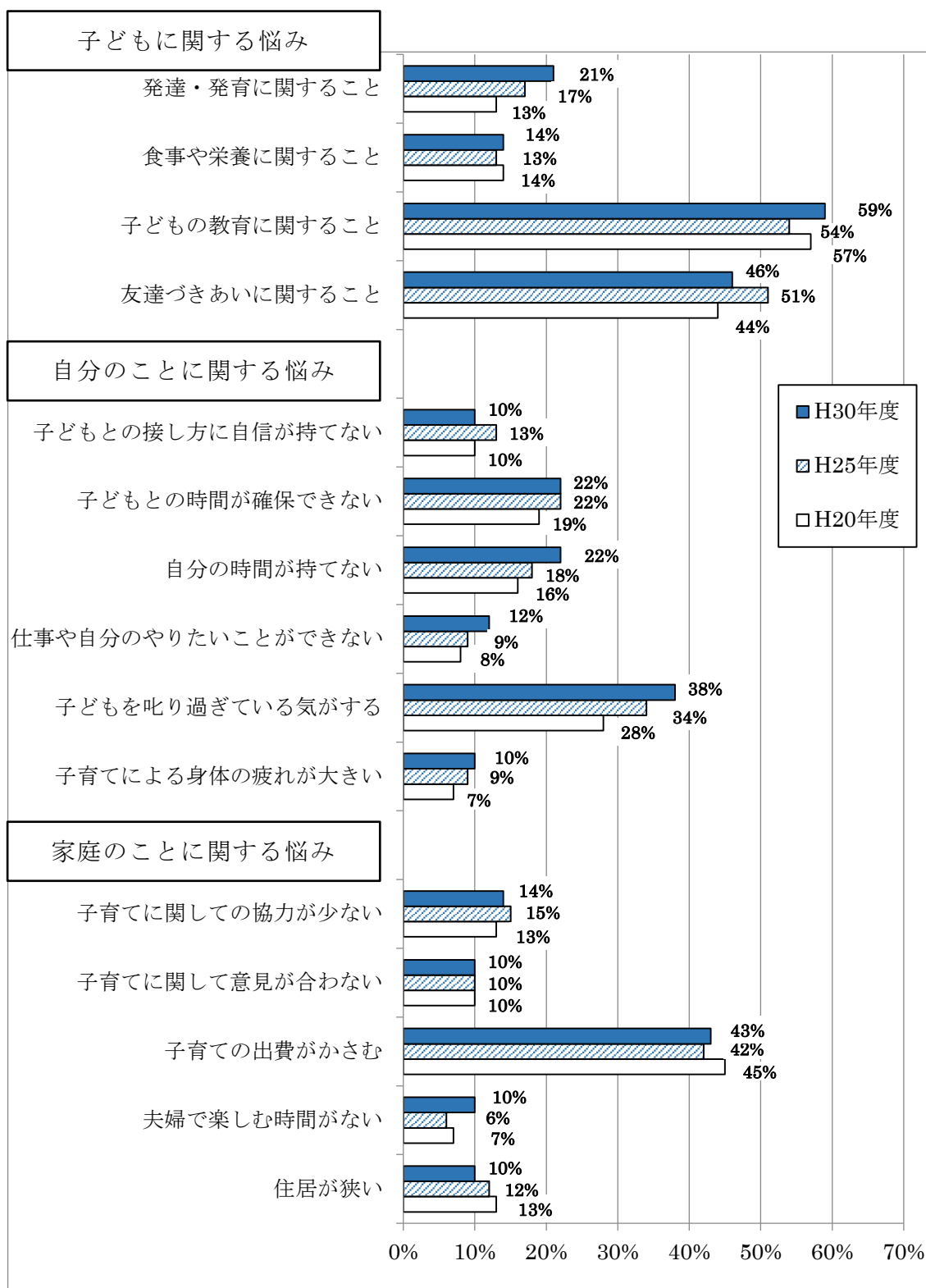
### 【自分のことに関する悩み】

- ・ 「自分の時間が持てない」や「子どもを叱り過ぎている気がする」などを選択した割合が前回調査時と比べて増加しています。

### 【家庭のことに関する悩み】

- ・ これまでの調査時と同様、「子育ての出費がかさむ」を選択した割合が最も高くなっています。

(資料 17) 旭川市 就学児童（小学生）を持つ保護者が感じている悩み



※ 資料：ニーズ調査結果報告書（H30）

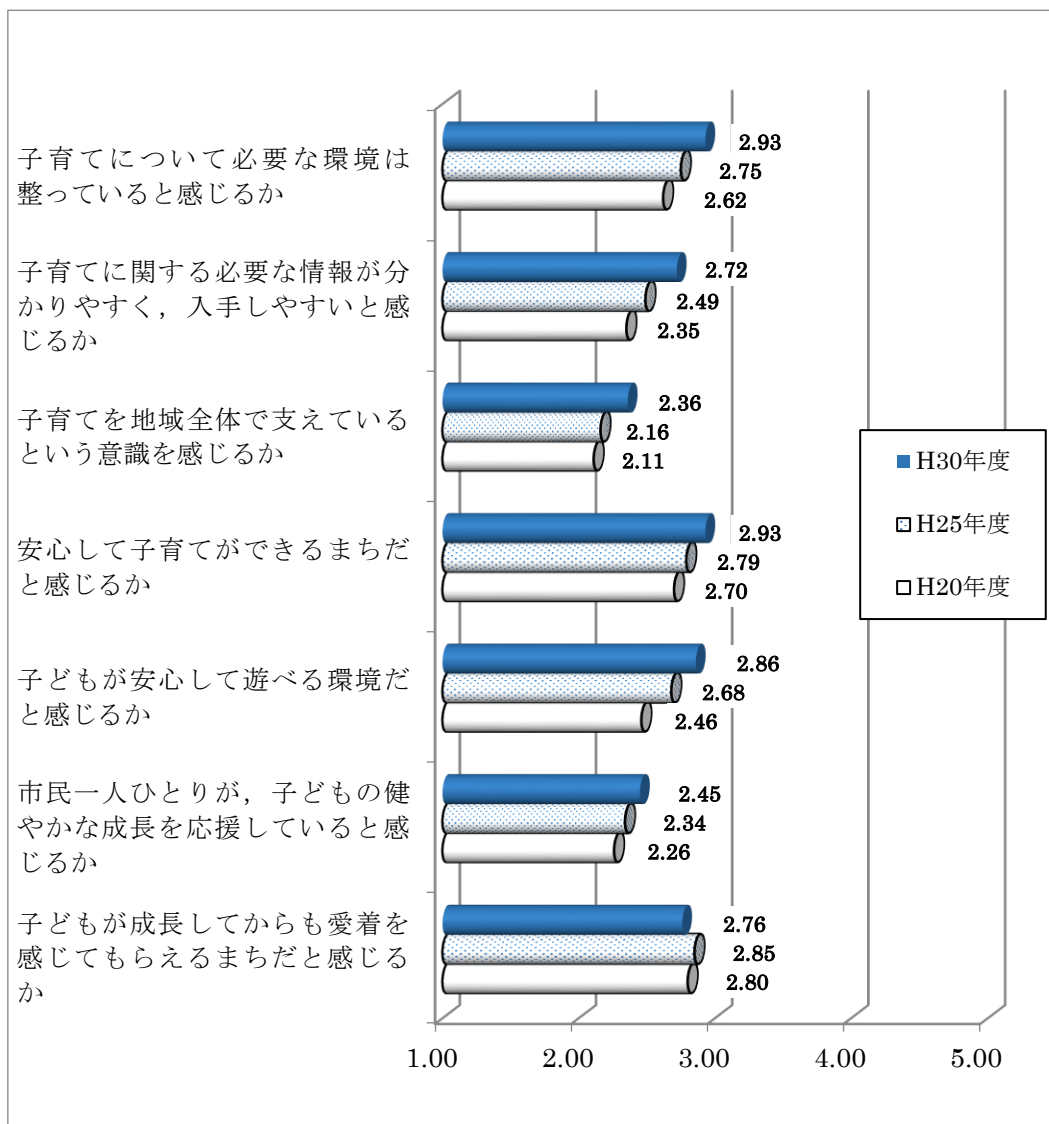
## (2) 子育て環境の満足度について

### ア 就学前児童を持つ保護者の状況

各項目についての満足度を、1（低い）から5（高い）までで質問したところ、就学前児童を持つ保護者については、7つの項目のうち6つの項目について、前回調査時と比べて満足度が高くなっています。

しかしながら、依然として、いずれの項目も中間点（3）以下の状況であり、特に、「子育てを地域全体で支えているという意識を感じるか」の項目は満足度が低い状況にあります。

(資料18) 旭川市で子育てを行っている中での満足度（就学前児童の保護者）



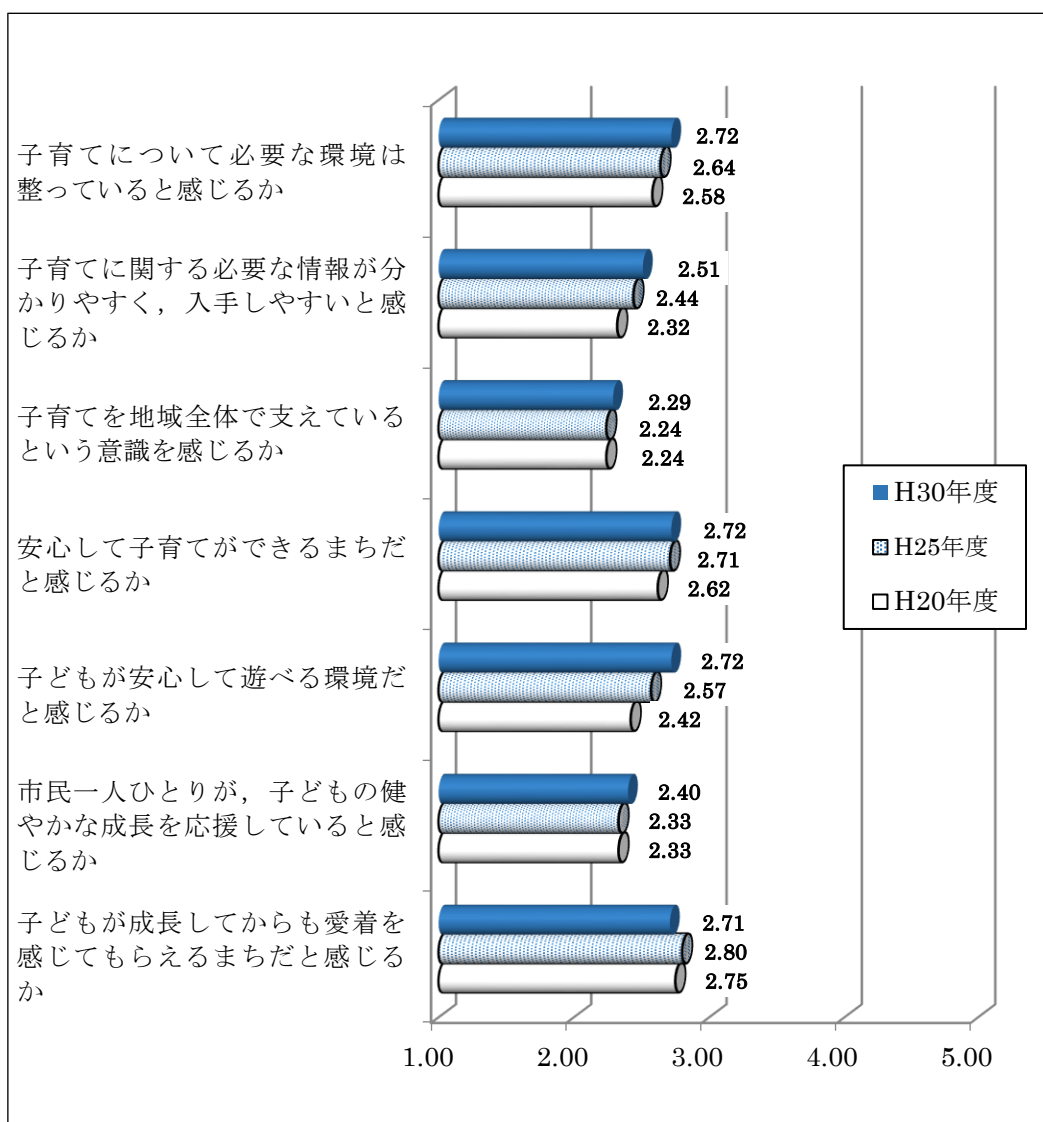
※ 資料：ニーズ調査結果報告書（H30）

## イ 就学児童（小学生）を持つ保護者の状況

就学前児童を持つ保護者と同様に、「子どもが成長してからも愛着を感じてもらえるまちだと感じるか」の項目を除いた、6つの項目が、前回調査時と比べて満足度が高くなっています。

なお、依然として、いずれの項目も中間点（3）以下の状況にあります。

（資料19）旭川市で子育てを行っている中での満足度（就学児童の保護者）



※ 資料：ニーズ調査結果報告書（H30）

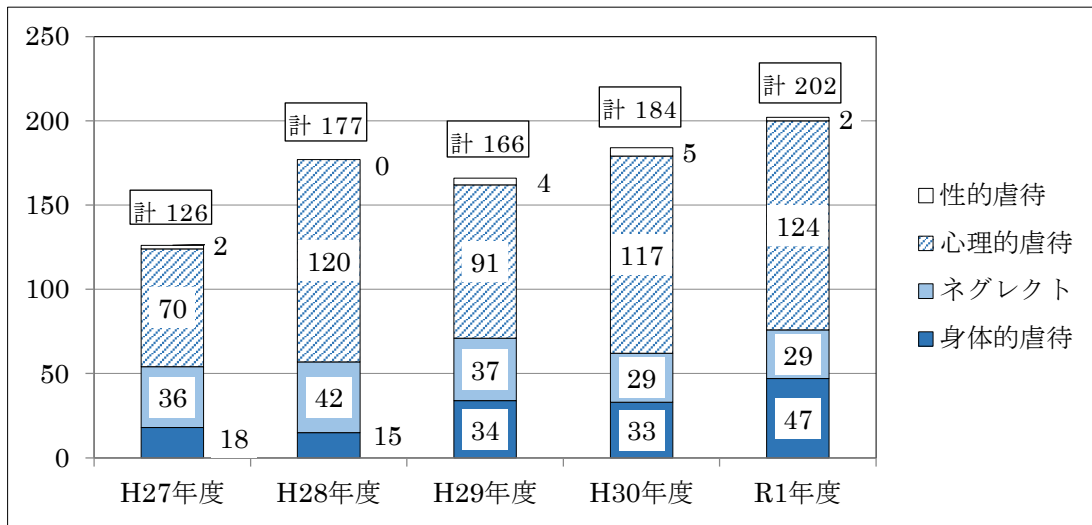


## 4 子どもの育ちについて

### (1) 児童虐待

全国と同様、本市においても児童虐待に関する相談が増加傾向にあり、虐待種別では心理的虐待と身体的虐待が増加しています。

(資料20) 旭川市における種別児童虐待対応件数 (単位：件)

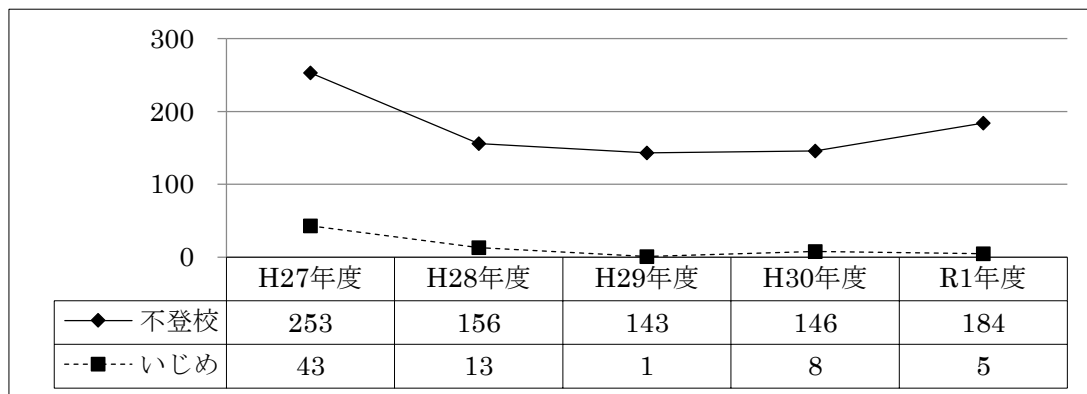


※ 資料：子育て支援部資料

### (2) 不登校及びいじめ

本市における不登校及びいじめの相談件数について、近年減少の傾向にありましたが、令和元年度は、不登校の相談件数が増加しています。

(資料21) 旭川市子ども総合相談センターにおける不登校・いじめの相談延べ件数の推移 (単位：件)

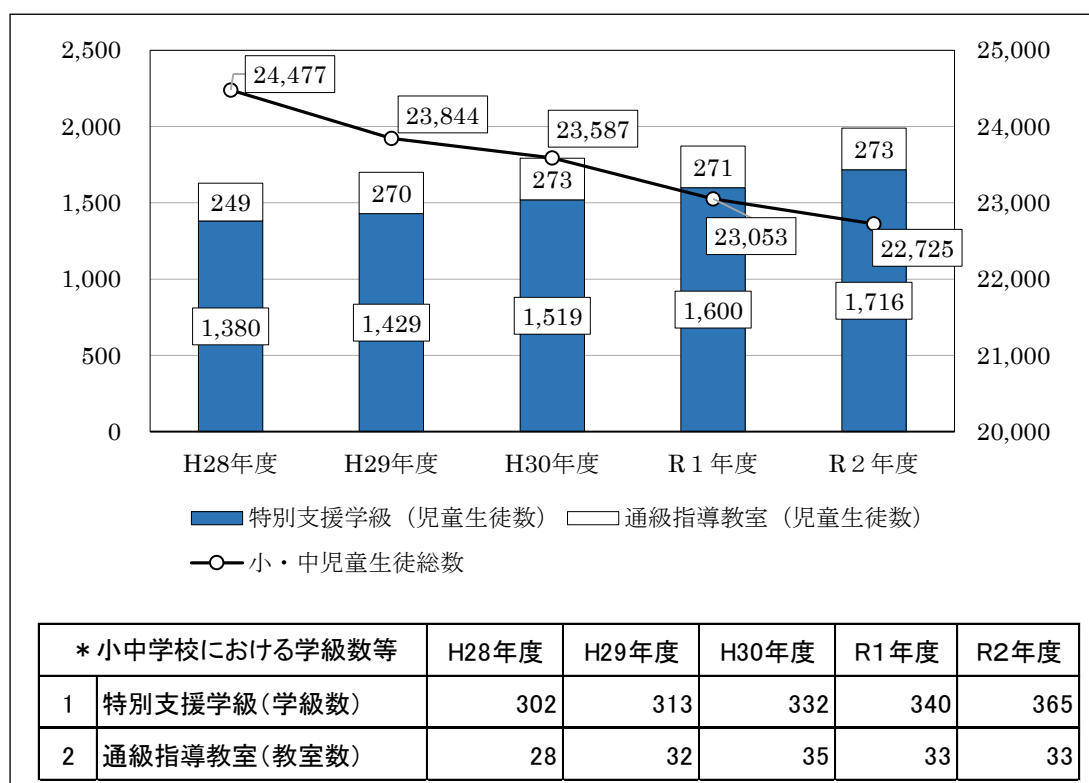


※ 資料：子育て支援部資料

### (3) 特別支援学級及び通級指導教室の状況

本市では、小中学校に在籍する児童生徒総数が減少する一方で、特別支援学級及び通級指導教室の児童生徒数は増加傾向にあり、平成28年度と令和2年度を比較すると、小中学校を合わせて360人増加しています。

(資料22) 旭川市 小中学校における特別支援学級及び通級指導教室の児童生徒数の推移（各年度5月1日現在） (単位：人)



※ 資料：旭川市の教育

### (4) 就職の状況

求人倍率の上昇に伴い、新規高校卒業者の就職内定率は改善傾向にあり、令和元年度は99.5%と高い割合になっています。

(資料23) 新規高校卒業者の就職内定率及び管内求人倍率の推移 (単位：%, 倍)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
就職内定率	94.2	97.0	96.8	98.0	98.7	99.3	99.7	99.5
管内求人倍率	1.28	1.40	1.58	1.65	1.77	1.99	2.01	2.15

※ 資料：新規高等学校卒業者のハローワーク求人に係る職業紹介状況（ハローワーク旭川）。各年度3月末。旭川公共職業安定所管内分。

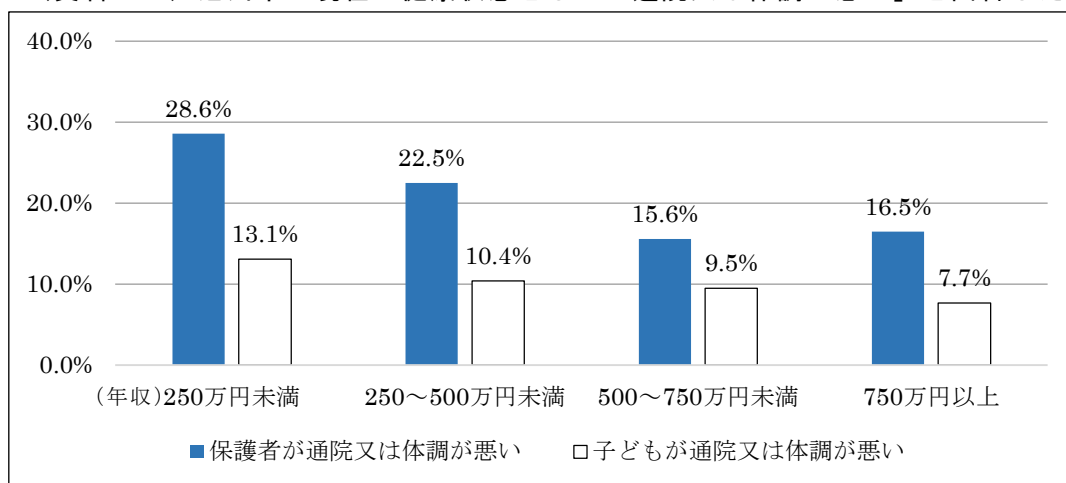
## 5 子どもの生活実態について

ここでは、子どもの貧困に係る生活の実態として、平成29年度に実施したアンケート調査（子どもの生活実態調査）の結果を基に整理します。

### （1）健康状態

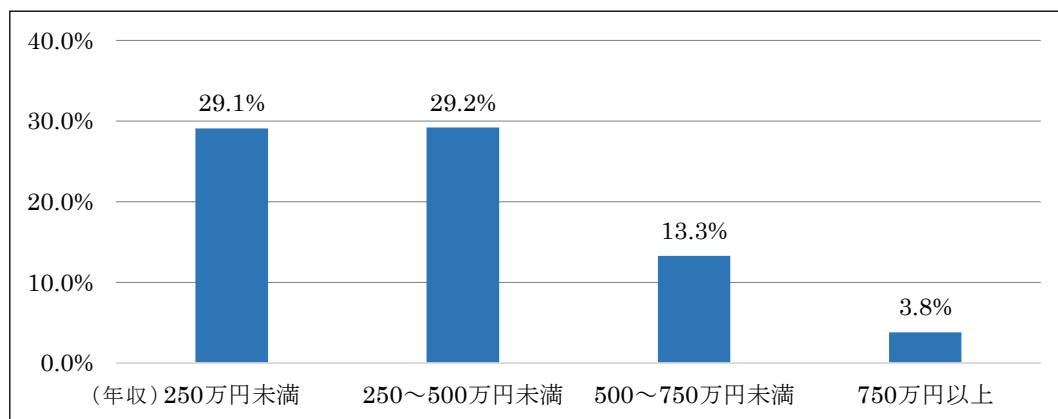
年収が低くなるにつれて、健康状態がよくない割合が、保護者・子どもともに高くなっています。また、子どもを病院に受診させられなかった経験のある人は全体の19.1%でみられ、年収が低いほど、その理由として「お金がなかった」とする割合が高くなっています。

（資料24）旭川市 現在の健康状態として「通院又は体調が悪い」と回答した割合



※ 資料：旭川市子どもの生活実態調査結果報告書（H29）

（資料25）旭川市 子どもを受診させられなかった理由として「お金がなかった」と回答した割合

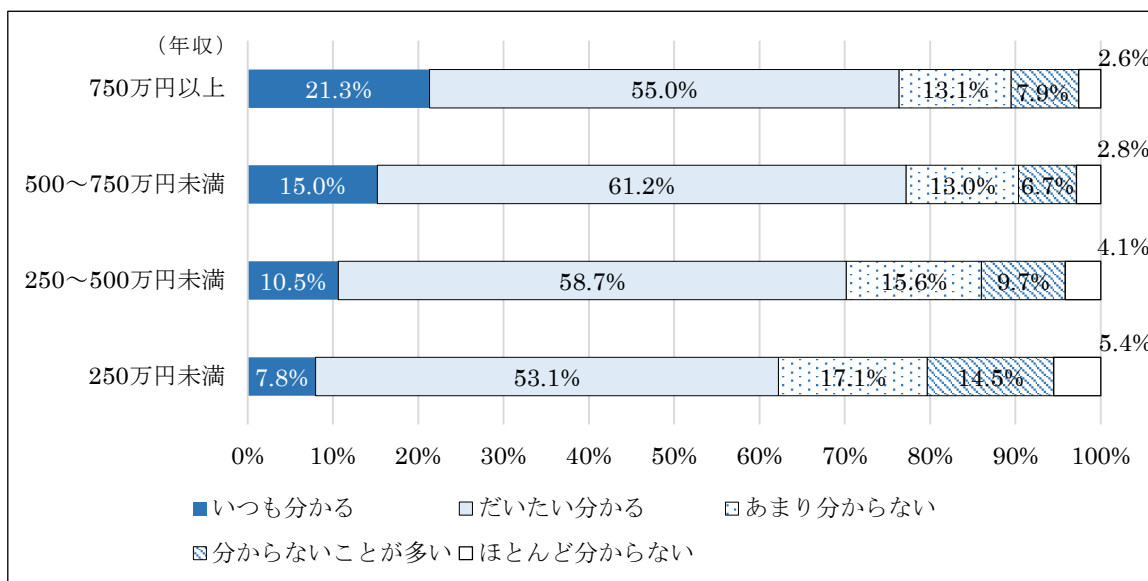


※ 資料：旭川市子どもの生活実態調査結果報告書（H29）

## (2) 学習状況

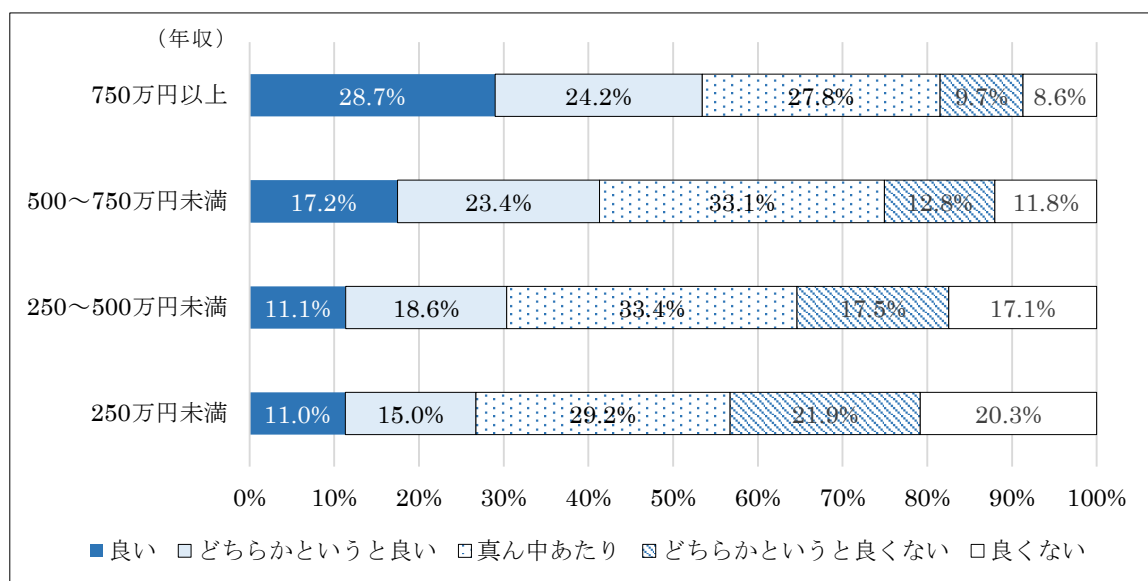
学習状況では、「授業の理解度」「自分の成績」とともに年収階層による差がみられ、年収が高い世帯の子どもほど、肯定的な回答となっています。

(資料26) 旭川市 授業の理解度



※ 資料：旭川市子どもの生活実態調査結果報告書（H29）

(資料27) 旭川市 自分の成績

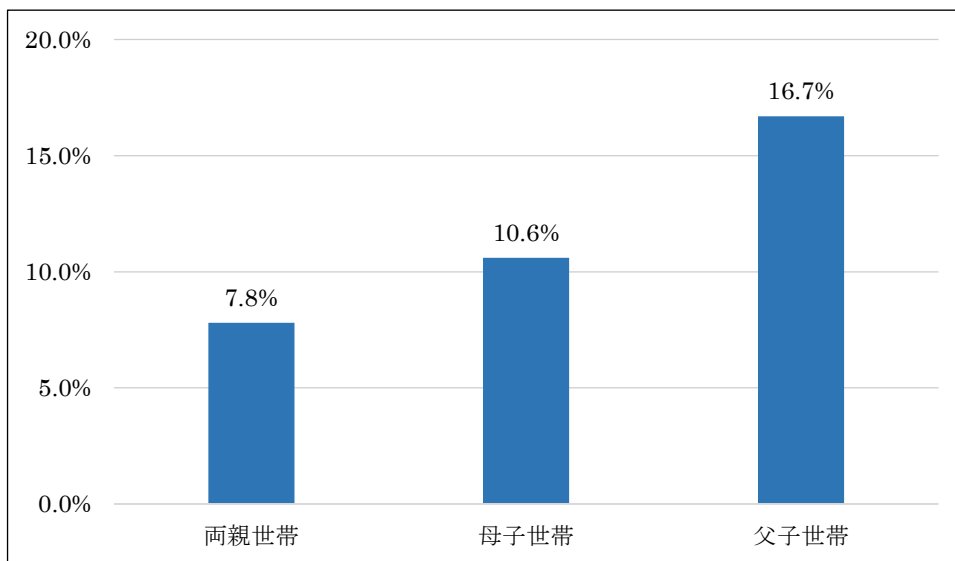


※ 資料：旭川市子どもの生活実態調査結果報告書（H29）

### (3) 子どもの家庭生活

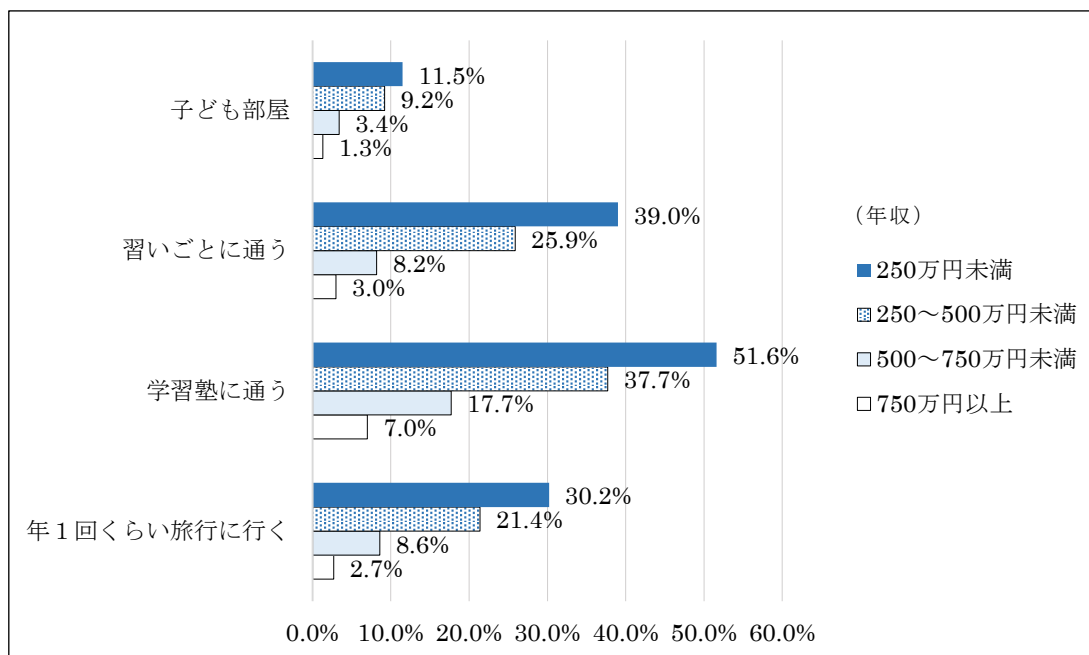
子どもが夕食を「一人で食べる」と回答した割合は、両親世帯よりも母子・父子世帯で高くなっています。また、子ども部屋の有無、塾や習いごと、家族旅行などの、子どもの生活環境や学習環境、経験において、年収階層による差がみられます。

(資料28) 旭川市 夕食を「一人で食べる」と回答した割合



※ 資料：旭川市子どもの生活実態調査結果報告書（H29）

(資料29) 旭川市 経済的に持てない・できないと回答した割合

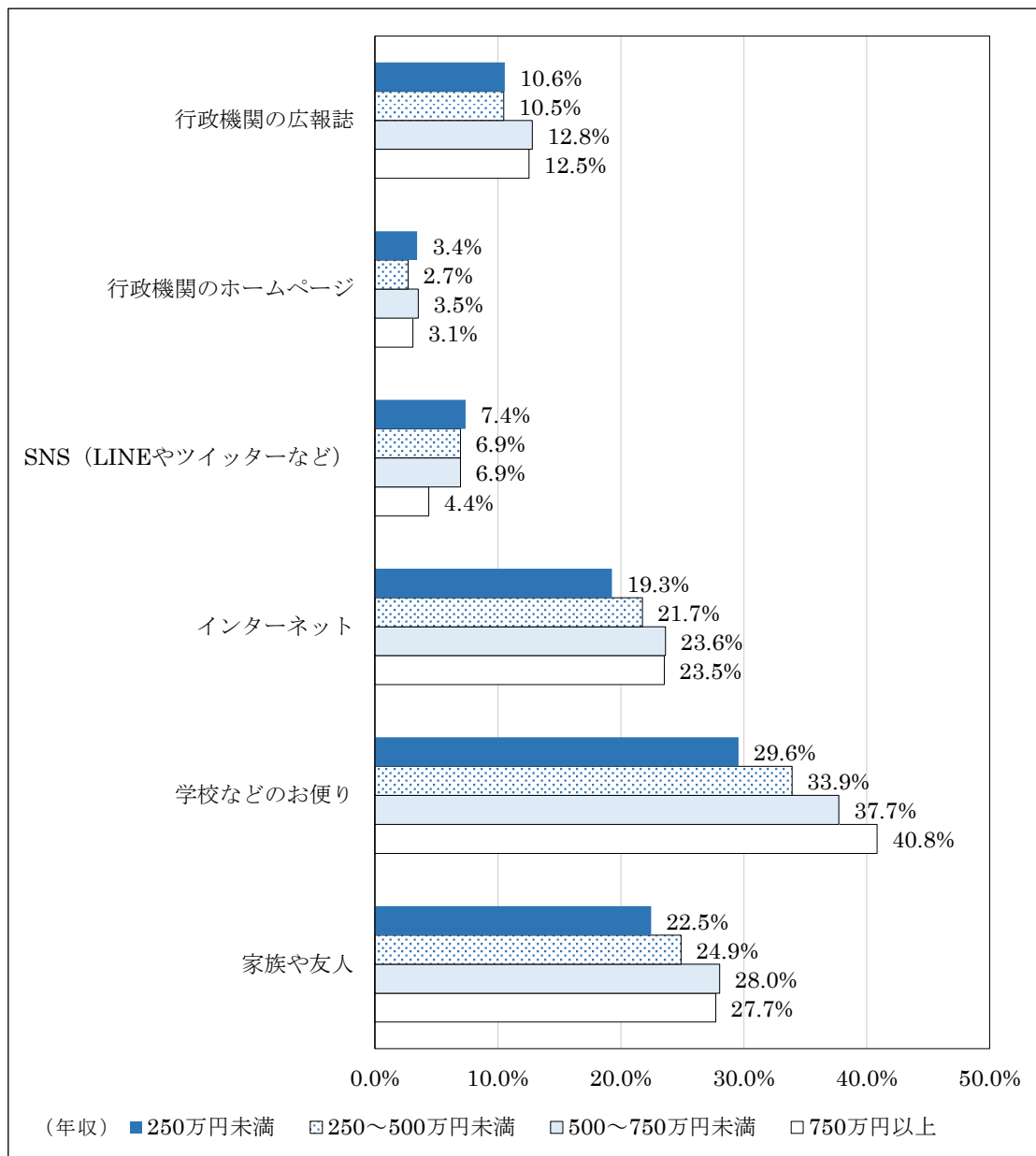


※ 資料：旭川市子どもの生活実態調査結果報告書（H29）

#### (4) 制度等の情報

子育てに関する制度等の情報を得る手段は，年収階層による差がみられ，年収が高い世帯ほど様々な媒体から情報を入力しています。

(資料30) 旭川市 子育て施策の情報を得るために参考とする頻度として「よくある」と回答した割合



※ 資料：旭川市子どもの生活実態調査結果報告書（H29）